

各病院の主な取組み

各病院において、次のとおり、府立の病院としての役割を果たすための取組みや、医療課題に適切に対応するための診療機能の充実に取り組みました。

<30 年度の取組み>

◆ 大阪急性期・総合医療センター

- 平成 30 年 4 月に開設した大阪府市共同 住吉母子医療センターについて、院内の連携強化による高度医療の実施及び周産期医療の充実
(分娩件数:30 年度 1,164 件 [29 年度 805 件])
- 心臓血管センターおよび脳卒中センターの充実による心疾患・脳血管疾患部門の更なる高度医療推進
(TAVI 件数:30 年度 52 件 [29 年度 45 件]、Mitra Clip 件数:30 年度 7 件(30 年度から開始)、急性期血栓回収療法 21 件 [29 年度 11 件])
- 小児科医増員による小児救急体制の整備等、ER 部門の受入体制強化による救命救急部門の充実
(救急車搬入患者数:30 年度 8,877 件 [29 年度 8,005 件])
- 2011 年 8 月に導入した Hybrid ER について、救急医療の発展に貢献することを目的とし、Hybrid ER を導入している 9 施設と共にハイブリッド ER システム研究会の立ち上げ
- がん医療の質とがん患者の QOL(生活の質)を向上するため、がんリハビリテーションの推進
(がんリハビリテーション実施件数:30 年度 964 件 [29 年度 957 件])

◆ 大阪はびきの医療センター

- 救急患者の受入れを拡大するため、呼吸器内科に加えて内科を標榜・消防署訪問や合同カンファレンス等の開催など、救急隊との連携強化
(救急患者受入れ件数:30 年度 772 件 [29 年度 680 件])
- 小児科において、週 3 日(10 月から週 5 日(月~金))の一般小児外来の診療を開始し、呼吸器疾患やアレルギー疾患以外の幅広い疾患に対する診療を実施
- 複数診療科が連携し、アレルギー疾患に対する専門医療の提供
(重症アトピー性皮膚炎患者に対する処置件数:30 年度 10,528 件 [29 年度 11,174 件])
(食物チャレンジテスト実施件数:30 年度 1,275 件 [29 年度 1,271 件])
- 大阪府アレルギー疾患医療拠点の幹事病院として指定を受け、大阪府や他 3 つの拠点病院と連携しながら、大阪府全域の医療者や府民等に対して研修や講演会等を実施
- 言語聴覚士を配置、病棟看護師と連携し嚥下評価を実施することにより、誤嚥患者のスクリーニングと嚥下訓練を適切に実施できる体制を整備
- 平成 30 年 4 月より消化器内科を再開し、幅広い診療ができる体制を整備、11 月より消化器内科専用の外来診察室をオープンし、外来診療を拡大

◆ 大阪精神医療センター

- 依存症治療推進センターにおいて、薬物・アルコール・ギャンブルの依存症に対する治療プログラムの運用及び効果検証
- 医療型障害児入所施設として、発達障がいの確定診断を実施
(発達障がい診断初診件数:30 年度 223 件 [29 年度 229 件])
- 関係機関との連携による多職種での訪問看護の実施
(訪問看護実施件数:30 年度 5,208 件 [29 年度 5,083 件])

◆ 大阪国際がんセンター

- 手術支援ロボットを追加導入し、新たな治療法の研究にも積極的に取り組むなど、難治がん・高度進行がん・希少がんをはじめとするがん患者への最適な集学的治療の実施
(手術実施件数:30 年度 4,014 件 [29 年度 3,929 件])
- 患者一人一人の症例に最適な治療法の選択や低侵襲ながん手術の実施
(EMR 内視鏡的粘膜切除術:30 年度 1,492 件 [29 年度 1,324 件])
- 外国人患者のスムーズな受入れを行うため、国際部を設置
(外国人患者受入れ数:30 年度 97 名 [29 年度 31 名])

◆ 大阪母子医療センター

- 妊産婦や新生児・胎児、小児に対する手術などの高度専門医療の提供
(手術実施件数:30年度 4,239件 [29年度 4,447件])
- 平成30年11月より小児救命救急センターに指定、重篤な小児患者への救命救急医療を提供
- 総合周産期母子医療センターとして高度かつ安定的な周産期医療を提供
(1,000g未満の超低出生体重児取扱件数:30年度 40件 [29年度 35件])
- 研究所において、原因不明の先天性小児疾患等に対して外部医療機関からの依頼に対し診断・解析を実施
(先天性小児疾患等の解析件数:30年度 672件 [29年度 593件])